

地域の防災力を高める手法の開発

様々な主体が連携して地域の防災活動に取り組む



防災システム研究センター 研究員 須永洋平

はじめに

大規模災害への備えや発生後の対応力を高めるためには、地域の自主防災会や避難所運営組織に加え、防災を目的としない市民活動団体、福祉関係団体、事業者など様々な主体との連携が不可欠です。また、地域の方々が持つ「地域の知」だけではなく、専門的、経験的な知を活用することも大切でしょう。防災科研では、専門知・経験知・地域知をもとに、様々な主体が連携して防災活動ができるような「話し合いの手法」の開発を進めています。

話し合いの手法

防災科研では、地域の防災力向上に向けて3種類の話し合い手法を提案しています。

【①防災マップづくり】

まちを歩いて、地域の防災資源や災害時に危険な場所を把握します。そして、災害時にとる災害対応行動を考え、資源・危険・行動が分かる防災マップを作成します。

【②防災ドラマづくり】

災害時に起こり得る課題について、地域リーダー、避難施設管理者、行政などの立場を演じながら対策を話し合い、災害対応行動を作成します。その対応行動は、ドラマ仕立てにして地域の方々に広めます。

【③訓練計画づくりと実施】

上記のマップづくりやドラマづくりで作成された災害対応行動が、適切に実行できるか、検証する訓練を、様々な主体が意見交換をしながら立案・実施します。

①防災マップづくり

まちあるき結果 話し合いによる災害対応行動

地域オリジナルの防災マップ

専門知(ハザードマップなど)
経験知(被災履歴など)

ハザードマップなどの専門的情報や、まちあるきによる地域の危険や資源を把握し、地域の敵と己を把握した上で、災害時の行動計画を地域の方々が話し合い、地図に行動マップとして入力します。

②防災ドラマづくり

シナリオづくり

災害時に起こりうる状況と課題を共有し、課題解決に向けた話し合いを実施します。

話し合いの成果はドラマ台本へと活用されます。ドラマは、ラジオ、ケーブルテレビ、演劇などの方法で地域に配信いたします。

ラジオドラマ収録

③訓練計画づくりと実施

要援護者の避難支援訓練

安否確認

これまでに実施してきた防災マップづくりと防災ドラマづくりでの話し合いの結果をもとに、地域オリジナルの訓練メニューを作成、実施いたします。そして、備えが十分に確認します。

「eコミマップ」を使ったマップづくり

これまでに作成されてきたハザードマップや避難所マップのような防災マップは、市町村全域のように広域の地図が多く、自主防災活動の活動範囲に即した地域の大きさの地図の作成は困難でした。しかし、これらの防災マップは専門知が含まれ、各種防災活動に活用できます。

防災科研では「eコミマップ」の開発をしております。eコミマップは、①ハザードマップなどの各種地図を引用できる、②まちあるきで得られた情報を自由に記入できる、③地域の大きさに合わせて地図を作成できる、という特徴があります。

防災マップづくりから始まる連携

(1) 愛知県田原市野田校区の事例

野田校区では、自主防災会メンバー主体で地域オリジナルの防災マップを作成しました。マップ作りの過程で問題になったのが、パソコン入力の担い手です。eコミマップはインターネットを使ったシステムのため、パソコンに慣

れていない方々には使いにくいのです。そこで、「連携づくり」です。地域の中学校に協力を求め、自主防災会と協働でマップを作成しました。地域のことを良く知っている自主防災会メンバー、パソコン操作に慣れている中学生、お互いの長所を活かした協力ができる防災マップが完成しました。

(2) 愛知県半田市亀崎地区の事例

地域には、商店や井戸、発電機、そして地域で活躍する人々、災害時に役に立つ社会資源が沢山あります。しかし、災害時にそれらを活用できないのであれば、防災資源とは呼べません。亀崎地区では、まちあるきを行うのと同時に、アマチュア無線を趣味とする方々のお宅に訪問、災害時に情報伝達や収集の手助けをしてもらうように協力のお声かけをして回りました。

上記は防災マップづくりの過程で連携を作った例ですが、「倒壊家屋の下敷きになった人を救出するために、重機を持っている土木業者に協力をお願いしよう」のように、出来上がった防災マップを見ながら連携づくりを考えた例も多くあります。

愛知県田原市野田校区での防災マップづくり(2009年実施)



◆10/13
自主防災会メンバーが防災マップにする資源や危険の項目を検討しました。



◆12/1
自主防災会メンバーがまちあるき結果をA0印刷した地図上に整理しました。



◆12/4・11
中学生がパソコンでeコミマップに

◆11/13
資源・危険の場所を把握するまちあるきを、中学生と自主防災会との合同で実施しました。



防災マップの完成(作成した地域の一部のみ表示)
パソコンからは写真も見ることができます。
また、様々なサイズの紙に印刷することもできます。

ドラマづくりの流れ

まず、初めに被害を想定します。どんな災害がどの規模で起こるのか、専門知、経験知や地域知を総合的に判断します。この被害想定をもとに、地域に即した具体的かつ実践的な対応や対策のあり方を検討していきます。

次に、災害対応のシナリオづくりです。「避難所をどのように開設するか？」のような災害時に起こり得る状況と課題を設定し、参加者が防災会長、行政担当者、民生委員、校長先生などの役割を演じ、被災時の対応を考えます。ここでの検討結果が、災害対応シナリオになります。

そして、このシナリオをもとにドラマの台本を作成します。作成された台本は、シナリオづくりの参加者だけでなく、行政、民生委員、学校などからも意見を頂いて、ドラマ台本及び災害対応シナリオを修正していきます。

こうして出来上がった台本をもとに、演劇、ラジオ、テレビなどの方法でドラマを作成し、

地域の方々に広く広めます。

ドラマづくりから始まる連携

神奈川県藤沢市鵠沼海岸5丁目では、2004年に台風22号の影響で内水氾濫が起きました。そこで、今回のドラマも大型台風による内水氾濫が起こると想定して作成しました。

台風が来る前にどのような対応が必要かを検討した結果、「最初に内水氾濫する場所の目の前にあるコンビニに、監視と連絡をお願いしよう」、「自動車が水につからないように、少し高いところにあるバス会社の敷地に移動ができないうか」など、“新たな連携”を作る必要が明らかになりました。

ドラマの配信

地元コミュニティFMで放送された防災ラジオドラマや台本は、以下のサイトで配信しております。是非ご試聴下さい。

<http://bosai-drip.jp/etc/bosai-radio-drama.htm>

神奈川県藤沢市鵠沼海岸5丁目でのラジオドラマづくり(2009年実施)



◆6/17
説明会を開催。
2004年に内水氾濫があったため、今回は水害を想定してドラマを作ることが決まりました。



◆9/22
アマチュア脚本家がシナリオをドラマ台本化。台本を地元住民や行政などが台本をチェックしました。



◆7/18・25
大型台風が地域を襲う場合、地域の方々がどのように動くか、シナリオを作成しました。



◆9/29
脚本家の指導を受けながら、地元コミュニティラジオ局でラジオドラマを収録しました。

訓練計画づくりの流れ

訓練を実施するためには、災害時にどのような対策行動をとるか、明らかにする必要があります。そこで、ドラマづくりと同様、被害の想定と災害対応のシナリオづくりを行います。

そして、作成された災害対応シナリオに基づき、訓練計画を作成します。訓練では、時間の制約があるため、全てのシナリオを実施することは困難でしょう。訓練で実施する範囲を選び、当日の動きを具体化して訓練計画を作成します。訓練計画は、ドラマ台本同様、行政、社会福祉協議会、学校など、訓練や実際に被災されたときに連携が必要な団体に声をかけ、一緒に作成すると良いでしょう。

訓練から始まる連携づくり

新潟県長岡市山古志地区は地域内に14の集落があり、そのうち2集落で災害対策シナリオを作成して訓練を実施しました。2007年の中越沖地震以後、各集落に衛星電話を配備しまし

たが、使い方が分からないこともあり、集落の被災情報を集めて役所に連絡をする訓練を行いました。その結果、衛星電話は音が小さく聞き取りにくいことが分かり、復唱のルールが必要なのことが分かりました。また、小・中学校へ登校したこどもの安否を確認する方法が確立されていないことが明らかとなり、学校と役所の連携づくりが必要なのことが分かりました。

皆さんも取り組みませんか？

上記のように実践してきた話し合いの手法を使って、地域の防災力を高めていきませんか？地域の防災力を高めたい気持ちをお持ちの、町内会や自主防災組織、避難所運営組織、PTAなどのグループを募集しております。「地域の防災力を高めたい」という強い気持ちをお持ちであれば、どなたでもご参加いただけます。お気軽にご相談ください。

【本プロジェクトのHP】

<http://bosai-drip.jp/>

※お問い合わせも上記HPからお願いします。

新潟県長岡市山古志地域での訓練計画づくりと実施(2009年実施)



◆7月
シナリオづくりの話し合い。防災会長や避難誘導班、救護班などの役割を演じながら、災害対策シナリオを作りました。



◆8月・9月
訓練計画づくり。地図を使って、負傷者発生場所などを検討し、訓練用の被害想定を具体化しました。



◆10/18
計画に沿って訓練を実施しました。負傷者の搬出や道路閉塞の状況を衛星電話で役所に連絡する訓練を行いました。



◆12/7
訓練反省会。衛星電話は音が小さく復唱ルールが必要、小学校と役所の連携づくりが必要など、新たな課題が明らかになりました。

